

よこが
お見



鎌田光三さん(48歳)京都府八幡市

「ピンチとかいけばん苦しいときというのは、いちばん人間がじつくりとものごとを考える時なんです。だから今がチャンスです」
25年あまり大手の損害保険会社勤務し、現在部長である鎌田さ

んからくりかえし出てくるこのこととは、仕事での現状の厳しさと共に、打開し乗りきっていく唯一の原動力でもあるようだ。
「僕の仕事は営業です。海上保険というのが中心ですが、今、円高で輸出企業にとって環境が悪いからどんどん輸入もできない。輸入の場合は、これまで百円のものに更に安く買えるが、輸出は、円高だからといって値を上げるわけにはいかないから更に困難。そうするとダブルで保険金額は減るわけです」
全国の54の支店と海外を結ぶOA化により、情報は一瞬も速く正確に、を要求され多忙を極める。
「こちらが夜だったらヨーロッパは朝ですね。今日のむ仕事は夜8時までにはファクシミリに入力し、返答を待つてから帰る。これ

をキチンと行うことが、お互いの信頼をつくっていくのです」
かつて氏は高倉会館の仏青メンパーとして、寸暇を惜しんで身体を運び「歎異抄」を学ばれた。
「仕事の上で、その学びが大きな示唆を与えてくれます」と、今も時間をさいて出かける。
「私をそこへ運んでくれたのは、幼いころお寺まいりにつれていってくれたおばあちゃんと、朝夕のお勤めで面白半分に見えた正信偈でした。そんな家庭づくりが大切だとつくづく思いますね」
訪ねた夜、約束の7時すぎに大急ぎで帰宅し、ネクタイもとらずに力強く歯切れよいお話を聞いた。終わった後は、訪ねてきた朋友を加えての語らい。「12時前に訪問客を帰すのは失礼なんですよ」とにっこり笑って、疲れをいやしておられた。
(慶)

仕事に生きる『歎異抄』の学び

河村とし子さんはクリスチャンの家に生まれ、小さいときから「信者即伝導者」ということをきかされて育ったという。こういう教育がわれわれ真宗門徒に欠けているのでなからうか。
「伝導」とか「教人信」などといえは「とんでもない

い。それはお坊さん方のなさることでしょう」といわれてきたなかで、「浄土の大菩提心」といわれ「願作仏の心はこれ、度衆生のころなり」とうたわれた聖人の熱いおころを、われわれはどのように受け止めてきたのだろうか。

《真宗聖典》五〇二頁

度衆生心どしゅうじょうしんということば
弥陀智願みだちがんの回向えこうなり
回向えこうの信樂しんぎやううるひとは
大般涅槃だいぱんねはんをさとるなり

林 暁 宇

親鸞の詩「ころる」

正像末和讃

21

「如来の教法をわれも信じ、ひとにもおしえかしまる——」とここにこそ、信心の自然の姿とはたらきがあるのではなからうか。

「度衆生心」などといえは、すぐに「自力だ、憍慢だ」ときめ込んで「私にはお聞かせにあずかるばかりです」と、へりくだりの世界へ逃げ込んでしまふところには、他力どころか自力さえもない。その無力教門徒によって教団の生命は涸渇してゆくばかりである。

先師は若かった私たちの魂に、いのちの最後の力をふりしぼって、繰り返し繰り返し「願作仏心・度衆生心」と叫びつづけてくださった。「愚か者は話したが、賢い者は聞きたがる」的な、賢者の立場を捨てし

めて、「度衆生心」ということは 弥陀智願の回向なり」という世界に立たしめられるところにこそ、「回向の信樂」があり、「大般涅槃」といわれるのではなからうか。

絶対他力はたゞ一つ
天地に満つる力なり
他力の外に自力なし
自力の外に他力なし
われらが自力と思ひをる
力も他力の廻向なり
天地に満つる妙用は
自力他力と莊嚴す

他力の教をきゝちがへ
人の自力ときらひをる
万善諸行の根柢に
動く他力を教へたり

《臨鳥敏全集「清沢先生讃仰」》